

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和4年7月1日（金） NO11 文責 木下 文秋

梅雨が明けてしまいました

27日にまさかの梅雨明け宣言がありました。過去最短だそうです。中学校総合大会の期間に雨が続けてやきもきしましたが、大会が終わってからは雨らしい雨もなく、週間予報でも晴れマークがちらほら見られていたもののまさかの梅雨明けでした。雨不足が心配されます。それから、梅雨明けと同時に、猛暑が続いています。まだ7月に入ったばかりですので、先が思いやられません。マスクの着用について少し触れたいと思います。3年前マスクの着用については、あごマスクをしたり、すぐ外したりする生徒がいて、感染予防の観点から三密対策などと口酸っぱく指導していました。ところが、今はマスクを外させる指導に追われています。小学校は発達の段階もあってもっと気を遣っているそうです。毎朝相当蒸し暑い中、徒歩や自転車で通学してきますが、ほとんどの生徒はマスクを着用したまま学校に来ます。特に自転車通生は、縦並びで自転車に乗っていますが、それでもマスクをしています。ゼイゼイ言いながら登校してきますので、熱中症も心配ですが、呼吸困難を引き起こすのではないかと不安です。脳の酸素が不足してぼ～っとなって自転車に乗るととても危険です。火曜日に、厚生労働省から出されたマスク着用のルールが書かれたリーフレットを生徒に配付しました。それによると、屋内でも会話がほとんどない場合はマスク不要とあります。また、屋外で2m以上の距離がとれればマスクは不要です。マスク着用の義務が求められるのは、屋内で会話をする場合や互いの距離がとれない時です。学校で言えば、教室での授業が該当すると思います。英語の授業で発音をしたり、その他の授業で発表をしたりする場合は必要になります。また、体育の授業や部活動では着用はしていません。まさしく熱中症や呼吸困難を招く恐れがあります。クイマールで登校する場合も、マスクはあった方がいいと思います。このように、時と場合に応じてマスクを着用したり外したりできる判断力を身に付けていく必要があります。私たちも、あの広い職員室にパラパラしかいないのに、マスクを着用して仕事をしています。「マスクを外すこと＝悪」のイメージが定着している感じが否めません。今こそマスク着用の文化を見直す時期に来ていると感じています。

